

巻 頭 言

山岸 千丈 (代表幹事)

SCE・Net (Senior Chemical Engineers Network)は、現役時代に培った技術・経験を生かし社会に貢献したいと考えている退職シニア技術者を組織化し、活躍の場を与えるべく平成 12 年 (2000 年)4 月 19 日に設立された団体で、社団法人化学工学会の産官学連携センター傘下の常置委員会であって、活動を始めて今年で 10 年目を迎える。そこでこの機に当会の設立時の理想と活動を振り返り記録として残し、同時にこれを当会の将来展望検討のベースにし、合わせてHPに公開して当会の広報誌としての役割も期待して 10 周年誌を編纂することにした。

当初の当会の目的は、シニア技術者が持っている様々な経験・技能(シーズ)と企業からの広範囲な問い合わせ・課題(ニーズ)を適切に結びつける仕組みをインターネットを利用して作り、シニア技術者が企業の技術的問題の解決に協力し、新しいシステムや考えの提案を行い、社会貢献に寄与し合わせて自己実現を目指すことであった。

しかし、10 年もたつと会員も入れ替り社会情勢も変化し、活動内容も若干変わってきていると思える。団塊の世代の大量退職や年金支給年齢の上昇に伴う企業の定年延長や再雇用制度などの対応で実質的な退職年齢も上昇、退職後も働くとの意識の減少などもあって、SCE・Netの会員の意識も変化してきていると考えられる。2006 年に実施した会員に対するアンケートでも、かならずしも仕事(社会貢献)だけを求めるのではなく、気楽に参加できる会になるようにとの期待も高く、相当数の人が懇親の場を設けることを希望していることが分かった。また、過去の経験だけでは企業のニーズに答えるのに限界があるので勉強しようということで始まった、安全、エネルギー、環境、装置材料、教育といった研究会への参加者も会員の半数以下という状況であり、企業の課題解決に参加することだけが目的という会員も減ってきているように感じられる。また、社会貢献活動も責任あるビジネスとしてきちんとした対価をとるべき、いやボランティアでよい、など様々な意見があり会員の意識の多様化も進んでいる。

とはいえ、企業や団体の技術的問題の解決に協力する外部受託事業や社会人教育事業、執筆活動の他に、5 つの研究会、技術懇談会、見学会などの交流会活動は活発に行われており、シニアエンジニアに居場所を提供していることは確かである。SCE・Netに参加することは会員に以下のメリットがあると考えられ、今後もMSI (Member's Satisfaction Index)の向上を目指して活動していきたいと考えている。

- 1) 技術懇談会で領域外の知識に触れ研究会に参加し勉強することでボケ防止だけでなく自分を活性化できる。
- 2) SCE・Netの名刺を持ち外部受託事業や社会人教育事業、執筆活動に参加することで社会貢献でき自己実現をはかることができる。
- 3) 研究会や交流会に参加しその後でお酒でも飲めば会社時代と違った親しい仲間ができる。
- 4) 夫の退職後の妻の悩みは「主人が毎日家にいる」ことだそうである、さすれば濡れ落ち葉にならず SCE・Netの活動で外出すれば奥様へのサービスとなり家庭円満にも貢献できる。